



コミュニケ



日本航空、国連生物多様性の10年のロゴを特別機「エコジェット」に導入

2011年10月12日、モントリオールー 本日、日本航空（JAL）は、東京の羽田空港で開催された記者発表会において、自社の自然との共生に対する情熱のシンボルとして、また、生物多様性への認識向上に貢献するため、国連生物多様性の10年（UNDB）のロゴを、JAL エコジェット・ネイチャーの機体に掲載したことを発表しました。このボーイング 777-200 の機体は、さまざまな環境活動を通じて日本の自然の美を守ることの重要性を伝えるため、国内線で運行されることとなっています。

同社はまた、このエコジェットに、環境省による「三陸復興国立公園構想」のロゴをあわせて掲載することにより、3月11日の地震で甚大な被害を受けた自然豊かな東北地方における、自然にやさしい復興の推進も応援しています。

JALの大西賢社長は、「エアラインは、世界の国々を結び、人々や文化の交流を担っています。人々を旅に誘うのは、自分の属するものとは異なる文化を体験したいという思いであり、それぞれの文化の基盤である生物多様性の保全は、エアラインにとって大変重要であると認識して

います。息の長い取り組みとして、今後もエアラインならではのやり方で、国連生物多様性の10年の取り組みに協力していきたいと思います。」と述べました。

生物多様性条約締約国会議の現在の議長、日本の細野豪志環境大臣は、「JALの生物多様性保全に向けての積極的な取組に敬意を表します。日本政府は「国連生物多様性の10年」の成功、すなわち愛知目標の実現に向けて、企業などとの協働の下、最大限の努力をしていく所存です。この度のエコジェット機の就航が、生物多様性の主流化に向けての大きな力となることを確信しています。」とコメントしました。

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の名誉大使である MISIA は、「この度は、JAL様の機体に国連生物多様性の10年のロゴがお目見えし、この機体を通じて、国内外のより多くの方たちに生物多様性について知っていただくきっかけになればと願っております。身近な海から、水から、空から、太陽から、大地から、木々から、生物多様性を感じていける人が増えていくことが、とても大切だと感じています。私たちは生物多様性の中で生きています。」と述べました。

生物多様性条約事務局のアフメッド・ジョグラフィ事務局長は、「昨今の JAL のタンチョウヅルのロゴの復活が何よりも象徴的といえます。これは新しい JAL のシンボルです。昨年、JAL は名古屋で開催された生物多様性サミットのロゴとスローガンをエコジェットの機体に掲載した、世界ではじめての航空会社となりました。そして JAL は、東北地方の自然にやさしい復興に貢献するとともに、国連生物多様性の10年の目的達成に貢献し、愛知目標の一番目の目標の達成に貢献することとなった、世界ではじめての航空会社となったのです。JAL は、グリーンな航空産業に向けた道筋を示してくれました。」と話しました。

国際生物多様性年である2010年、JALグループは、日本の環境省にエコ・ファースト企業として認定され、同年10月に名古屋で開催された第10回締約国会議のロゴ、および同会議のスローガンである「いのちの共生を、未来へ」をボーイング777-200型エコジェットに掲載することにより、一般の認識を高めました。さらに、このスローガンは、機内誌や機内ビデオ、機内で配布される折り紙や絵本などにも盛り込まれました。

より詳細な情報については、下記までお問い合わせください。

David Ainsworth on +1 514 287 7025 or at david.ainsworth@cbd.int; or Johan Hedlund on +1 514 2787 7760 or at johan.hedlund@cbd.int.
